

週報 No.2020-16

主暦 2020 年 4 月 19 日
日本バプテスト連盟
大宮バプテスト教会

4月8日に埼玉県にも発令された緊急事態宣言から早2週間近くなっています。イースターの喜びをお互いに顔と顔を合わせて語らうことはかないませんでしたが、復活の主、キリストの希望をもってお互いに励まし合っていきましょう。一寸先は闇に思えるような今こそ、闇の中の光イエス・キリストを共に仰ぎましょう。

先週「自宅礼拝の手引き」と題して礼拝プログラムやお祈りの課題、ご報告などをお送りしましたが、今週から礼拝が再開されるまでは「週報」として、お配りします。

週報はお互いに顔を合わせることができない時に、お互いをつなげる役割を担ってきました。大宮バプテスト教会が今まで分かち合ってきた信仰の交わりをこれからも大切にしていきたいために、また時と場所は離れつつも礼拝の友として、共に歩むために最善を模索し続けていきたいと思えます。皆様からも、分かち合いたい祈りのリクエスト等、ありましたらお寄せください。共に祈りで支えあい歩んでまいりましょう。

<在宅礼拝にあたって>

- ・教会堂で共に礼拝を捧げていた時を思いつつ日曜日の 11:00~12:00 を目安に下記の在宅礼拝プログラムをご一緒しましょう。
- ・教会堂での礼拝の場合、御言葉や祈りは司会者のことば（声）を通して聞く、賛美歌は奏楽者のリードで会衆一同、歌うことによって捧げていますが、在宅の礼拝の場合は、以下を参考にして、夫々の工夫によってささげましょう。わからないことは、牧師にお尋ねください。
- ・「招詞」
招きのみ言葉です。この礼拝に招かれていることを感謝し、聖書のみ言葉に聴きましょう。
- ・「聖書」
御言葉をゆっくり味わいましょう。音読するなどの方法もおすすめです。
- ・「感謝と献金の時」
献金は感謝と献身の表しとして捧げられますが、在宅では1週間の出来事を思い起こして感謝の祈りをささげましょう。
- ・「賛美」
歌詞を読んで味わうなどでも結構です。ユーチューブに収録されている賛美に声をそろえるなどの方法も考えられます。
- ・「メッセージ」
「メッセージ要旨」をお読みください。
- ・「祈祷」
メッセージから受けた恵みや、祈りの課題を含め示されたところを祈りましょう。
- ・「頌栄」
牧師の祝祷を受けることはできませんが、「ベネディクション」の賛美を通して主の福福を受けましょう。

在宅礼拝プログラム

- ・招 詞 詩篇 50 篇 15 節
- ・賛 美 新生 140 番 「空の鳥を見よと」
- ・感謝と献金の時
- ・主の祈り
- ・聖 書 詩篇 19 篇 1-6 節 (口語訳旧約聖書 762 頁)
- ・メッセージ 「その声も聞こえないのに」
- ・祈 禱
- ・賛 美 新生 431 番 「いつくしみ深き」
- ・頌 栄 新生讃美歌 679 「ベネディクション」
- ・黙 禱

<メッセージ要旨>

私たちが今直面している事態は“したいことができない”困難と表することができるでしょう。たとえば今も、英国の医師ら(ベルファスト・ヘルス・アンド・ソーシャルケア・トラスト)による呼吸器科チームが「あなたが自宅にとどまることを選択すれば、他の人たちの命を救うことになる」と呼びかける無料配信動画は、ソーシャルメディアで拡散されています。これは命に直結した忍耐が必要とされている現実を証ししてくれていると思います。「愛は、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。(1 コリント 13:7 より)」 私たちはこの愛を天から受けましょう。“したいことが何もできない今”であればこそ神の愛に満たされるため、耳を澄ますべき天、仰ぐべき天が、恵みとして、あらゆる命に分け隔てなく、すでに開かれているのではないのでしょうか。(1~2 節)

天から響く“声なき声”(3~4 節)は、天使の賛美なのか、はたまた“世界の果て”に追いやられている涙、うめきか…十字架の道は“したいことができない”道でした。(マタイ 26:39、マルコ 14:36、ルカ 22:42) とくにルカ福音書については十字架に向かう主イエスの絶望的な祈りを天使が力づける描写が記された写本も残っているようです。(ルカ 22:43~44) だとしたら“したいことができない”うめきが世界中に蔓延する今、天使はどのように力づけ、十字架の愛はどのように語りかけてくれるのでしょうか。それは、沈黙の中に抑えつけられているような今こそ、あらゆる命がすでに、キリストの命の香り(2 コリント 2:14~16)を解き放つ花一本一本となっていると宣言してくれているのではないのでしょうか。

ご自宅で礼拝に向かう際も、お一人お一人が抱える事情で、賛美したくとも賛美できないかも知れません。祈りたくとも祈れないかも知れません。しかし、その“ありのままの姿”をもって十字架の主を仰ぐ礼拝に進みましょう。たとえ声には出せなくとも、感謝をもって過ぐる一週間、新たに迎える一週間を覚えて祈りましょう。その“ありのままの姿”をもって新しい一週間に献身するとき、あらゆる命がキリストの命の香りとされている恵みを知るでしょう。また週報に記載された祈りの課題なども覚えましょう。礼拝休止中は今までできていたかたちに必ずしも縛られないでください。できるときにできる範囲で賛美の言葉一つ一つを読みましょう。永遠の天の恵みとなられた十字架の主から、人知を越えた温もりが降り注ぎます。